

北陸地域における渡来系遺物群の集成

新村いづみ 松尾 実

はじめに

近年の古墳時代研究は、東アジアからの視点で日本の社会像に迫った研究成果が多く発表されている^(注1)。從来から、古墳の主体部から出土した武具、装身具、威信具等の個別研究等から朝鮮半島への系譜や政治的交流・交易が指摘され、さらに、韓式系土器研究等の成果^(注2)からも、陶質土器の系譜、軟質土器の動向、須恵器の生産・流通等の研究が行われてきた。一方、北陸地域^(注3)での研究状況は、数少ない研究者によって古墳研究が深化されているが、集落等については低調といえよう。ただし、南加賀地域を中心に発見されたL字形竈を付設する建物の発見を契機に中国大陸や朝鮮半島へも目を向けられ、韓式系土器等が注目されつつあるが、それらの基礎作業が行われておらず、社会的動態等について言及されていないのが現状である。そこで、本稿では北陸地域における現時点での状況を把握・整理するため、渡来系遺物群を中心に集成を行うことを主目的として、基礎データの提示と、若干の検討を行いたい。

渡来系遺物の名称については、渡来人^(注4)によってたらされた多様多種な土器の総称とし、主に土師器の移動式竈・瓶・朝鮮系軟質土器、須恵器の瓶・角杯形土器等の特徴的な遺物を集成する。なお、渡来人と密接に関わるL字形竈を付設した建物も検討対象に含めた。また、須恵器生産の拡散期に多大な影響を与えたと考える初期須恵器^(注5)にも注目し、それらとの関係性等の検討を試みるために集成の項目に入れている。検討の対象時期については、古墳時代（前期・中期・後期・終末期）とし、主に田辺編年^(注6)に準拠する。

本稿は、新村いづみと著者が幾度と勉強会を行い、その成果をまとめたものである。本文中の構成や内容については両者で協議を行った。各文の終わりには名前を記して文責とする。 (松尾)

1. 研究略史

管見であるが、北陸地域における渡来系遺物群の中では、福井県三方市獅子塚古墳出土の角杯形土器を研究の端初となす^(注7)。その後、研究は低調になりつつも、1990年代から活発に議論が行われるようになる。以下では、北陸地域での個別に研究成果をまとめてみたい。

i) 陶質土器

陶質土器の分布は一部能登地域に見られる他、古川登氏、入江文敏氏、川本紀子氏の集成^(注8)により、越前・若狭地域に集中することが指摘されている。初期須恵器との区別が難しいことから、未だ未確定の遺物も少なくない。

ii) 初期須恵器

田嶋明人氏は共伴した須恵器による土師器編年の視点から初期須恵器の供給状況と地域相について言及した^(注9)。吉岡康暢氏は加賀・能登地域においてその移入時期・遺跡・器種別に出土傾向を試みた。その結果、主に集落・古墳から出土し、出土頻度はほぼ同等、古墳祭式で多用される傾向があり、集落での使用に先行する、用途に応じた器種の選択が行われた、陶邑産が大半を占める、等を指摘した。さらに、分布状況から在地生産の前段階における流通機構の存在を示唆した^(注10)。以降、初期須恵器の研究は、流通の問題に関連付けて行われる傾向にある。

iii) 移動式竈

田嶋明人氏は5世紀末～6世紀初頭を中心に、古墳時代に比定できるものは能登に集中し、7世紀からは北陸全体に分布する傾向を指摘した^(注11)。また、樫田誠氏は能登一帯で5世紀末に集中する特異な状況について、同時期に盛行する製塩と王権への貢納に関わる儀式に関連するものとした^(注12)。田中昌樹氏は竈形土製品として集成し、日常的に使用されたものではないこと、肩部が張る、凸帯をもつ、煙孔、把手孔をもつ等の役割や具体的な形態的特徴をまとめた。8世紀の出土品については、都城の律令祭祀とは異なる、火に係わる祭祀として使われた可能性を指摘した。また、額見町遺跡等の渡来系集団に関連した遺跡出土のものに関しては、二世、三世による製作を指摘している^(注13)。

iv) 角杯形土器

6世紀を中心に美濃、若狭、加賀、能登等の地域に集中することから、継体伝承と結びつける説や、「日本書紀」垂仁紀にみえる渡来人説話との関連^(注14)で考えられている。興道寺窯産の角杯が獅子塚古墳から出土したことについて、田辺昭三氏は地方窯と地方首長の関係性を指摘している^(注15)。なお、具体的な用途については、朝鮮半島や大陸等の資料から類推した論考が見られる^(注16)。建物からの出土例があることから、集落内での特異性について検討する必要がある。

v) 朝鮮系軟質土器

望月精司氏は額見町遺跡出土の朝鮮系軟質土器について北陸型煮炊具の祖型として評価し、7世紀前半の白山市北安田北遺跡や加賀市千崎遺跡等で「朝鮮系軟質土器」と認識できる資料があることを指摘した。また、7世紀後半にみられる在地型土器の画期について、前段階に渡来系集団の地域参入と朝鮮系軟質土器の影響を考えた^(注17)。これに関連して、樫田誠氏は、横穴系埋葬施設成立の様相に注目し、渡来系集団をはじめとした工人を一括する一定層が、横穴系の墓制を携えて地域参入を行ったと推測している^(注18)。川本紀子氏は、福井市和田防町遺跡出土の軟質土器を検討し、在地土器に対する割合が極めて少ないと、5～6世紀の緊迫した国際状況からそれらを「特殊な位置」を示す可能性を提起した^(注19)。

（新村）

2. 渡来系遺物群の個別検討

北陸地域において、渡来系遺物群が出土した遺跡は、管見で124遺跡を数えることができた。総じて水系ごとの主要な古墳群が付近にある集落や海辺・山間部から出土していることが看取される。

今回、検討するのは、渡来系工人に關係する陶質土器、初期須恵器、生活する場のL字形竈を付設する建物（住居）日常生活で使用される道具で、煮炊具の移動式竈・瓶、朝鮮系軟質土器、特殊な用途の角杯形土器等を対象としたい。本来ならば、個別実証的な作業手続きが必要不可欠であるが、今回は集成を基に傾向と特徴を概観する。ただし、個々の時期等は訂正している。集成に際しては、遺跡の所在地、立地、層位・遺構、遺物の種類、時期などの項目を設定し、基礎データとした。遺跡の性格は集落の存在が想定できる遺跡もその範疇に入れている。

i) 陶質土器・初期須恵器

陶質土器とは、朝鮮半島で製作され日本に舶載された還元焰焼成の焼物とされ、一方、日本で製作された初期須恵器は、陶質土器の技術系譜上にあり、窯窯による還元焰焼成の焼き物とに分けて考えられている。ここでは、須恵器が定型化されるまでのTK208型式以前の範

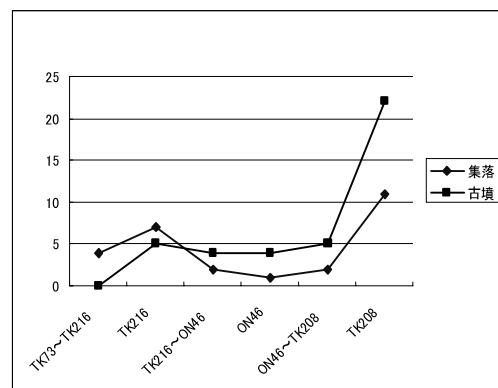


表1 初期須恵器 時期別量的変遷図

初期須恵器集成									
遺跡名	性格	層位・遺構	時期(型式)	出土土器	遺跡名	性格	層位・遺構	時期(型式)	出土土器
相川中1号墳	古墳	墳丘	TK216	甕、杯身、杯蓋	下山3号墳	古墳	石室内	TK208	甕
流通業務団地	古墳	墳丘	TK216	甕	向出山古墳1号墳	古墳	石室	TK216~TK208	杯蓋、高杯、甕
NO.7遺跡(6号墳)	古墳	周溝	TK216	有蓋高杯身	矢田遺跡	集落	溝	TK73?	杯蓋、甕
上野1号墳	古墳	墳丘(採集)	TK216	大型甕	中村畑遺跡	集落	住居、包含層	TK73~TK216	把手付椀、中型甕
向出山古墳2号墳	古墳	墳丘(採集)	TK216	甕、坦	道林寺I遺跡	集落	住居	TK73~TK216	杯蓋、杯身、甕
和田山5号墳	古墳	墳丘	TK216~ON46	甕	四柳ミツコ遺跡	集落	豎穴建物など	TK73~ON46	無蓋高杯、杯身、甕
和田山22号墳	古墳	周溝	TK216~ON46	甕	古府クルビ遺跡	集落	溝、住居	TK216	杯蓋
茶臼山1号墳	古墳	墳丘	TK216~ON46	台脚付短頸甕	漆町遺跡	集落	溝	TK216	直口壺
茶臼山12号墳	古墳	墳丘	TK216~ON46	杯蓋、甕、甕	高堂遺跡	集落	包含層	TK216	蓋杯
二子塚10号墳	古墳	周溝	ON46	甕	千崎遺跡	集落	土坑	TK216	杯蓋
二子塚19号墳	古墳	周溝	ON46	甕、杯身、器台	大菅波D遺跡	集落	溝	TK216	甕、杯身等、甕
二子塚29号墳	古墳	周溝	ON46	甕	田伏遺跡	集落	包含層	TK216	杯身
鳥越山古墳	古墳	不明	ON46	蓋、有蓋高杯、甕、甕、器台	上筋生田遺跡	集落	不明	TK216~ON46	大型甕、甕
二子塚16号墳	古墳	周溝	ON46~TK208	甕	川鉄橋遺跡	集落	不明	TK216~ON46	杯蓋、杯身、高杯
二子塚20号墳	古墳	周溝	ON46~TK208	甕	正友遺跡	集落	不明	ON46	把手付椀
二子塚21号墳	古墳	周溝	ON46~TK208	短頸甕	二子塚遺跡	集落	住居	ON46	甕
二子塚33号墳	古墳	周溝	ON46~TK208	杯身	北反戦遺跡	集落	包含層	ON46~TK208	杯身、甕、甕、把手付椀
城光寺B2号墳	古墳	墳丘、周溝	ON46~TK208	甕	永町力マノマガリ遺跡	土坑	土坑	ON46~TK208	杯蓋、甕
イヨダノヤマ3号墳	古墳	墳丘	TK208	杯身、蓋、甕、甕等	上河北遺跡	集落	不明	TK208	杯蓋、杯身、甕
吸坂丸山5号墳	古墳	周溝	TK208	甕、甕、蓋	倉垣遺跡	集落	溝	TK208	杯蓋
国分高井山4号墳	古墳	周溝	TK208	甕	若宮B遺跡	集落	住居、包含層	TK208	甕、杯蓋、身
赤浦古墳群	古墳群	墳丘(採集)	TK208	有蓋高杯	草江丸山遺跡	集落	落ち込み	TK208	有蓋高杯、大型甕
小竹ガラボ山古墳	古墳	墳丘	TK208	甕、器台	相馬山遺跡	集落	不明	TK208	有蓋高杯、甕
茶臼山3号墳	古墳	周溝	TK208	大型甕、甕、甕	万行赤岩山遺跡	集落	住居	TK208	杯蓋
茶臼山6号墳	古墳	墳丘、周溝	TK208	有蓋高杯	石塚遺跡	集落	不明	TK208	杯身
和田山4号墳	古墳	周溝	TK208	杯、有蓋高杯、甕	烟中遺跡	集落	不明	TK208	有蓋高杯、蓋
寺井山1号墳	古墳	墳丘(採集)	TK208	甕、甕	木町遺跡	集落	不明	TK208	高杯
二子塚23号墳	古墳	周溝	TK208	甕、甕	畠田・寺中遺跡	集落	溝	TK208	杯身、無蓋高杯、甕など
二子塚36号墳	古墳	周溝	TK208	甕、甕	芦川八幡遺跡	集落	不明	TK208	大型甕
寺山古墳	古墳	墳丘(採集)	TK208	杯蓋、身、高杯	中遺跡	集落	不明	TK73~TK208	杯身、高杯、器台等
中川10号墳	古墳	墳丘(採集)	TK208	器台	竹生野遺跡	集落	包含層	TK216~TK208	把手付椀、杯身、杯蓋
西塚古墳	古墳	墳丘	TK208	高杯	高田遺跡	集落	包含層	TK216~TK208	橢型甕、甕、杯蓋、杯身、壺
村国山2号墳	古墳	古墳(採集)	TK208	甕、壺					
太田山古墳群	古墳	墳丘表土	TK208	高杯					
6号方形周溝墓	古墳								
蠟子山古墳群	古墳	不明	TK208	大型甕					
飯綱山古墳群	古墳	不明	TK208	甕					
下山1号墳	古墳	石室内	TK208	大型甕					

表2 初期須恵器・陶質土器一覧表

移動式竈				
遺跡名	性格	層位・遺構	時期	備考
柳田遺跡	集落	不明	5C末	
畠田・寺中遺跡	集落	溝	5C末~6C初	
高田遺跡	集落	土器器窓(祭祀)	5C末~6C初 (TK216~TK47)	
千崎遺跡	集落	住居	5C後~6C初	
水白モノシヨ遺跡	集落	包含層	5C末~6C前	
下開発遺跡	集落	包含層	5C末~6C前	
神代羽連遺跡	集落	不明	5C末~6C前	
中村畑遺跡	集落	溝	5C後~6C前	
矢田遺跡	集落	溝	5C末~6C	
久江C遺跡	集落	排水溝掘削	5C~6C	
曾福遺跡	集落	不明	6C	
指江B遺跡	集落	河道	6C	
中尾新保谷内遺跡	集落	不明	6C	
弓波遺跡	集落	川跡	6C	
奥原遺跡	集落	包含層	6C	
細口源田山遺跡	集落・古墳	包含層	6C後	
吉見浜遺跡	集落	不明	6C後~7C初	
浜禰遺跡	集落	不明	6C後~7C初	
利田横枕遺跡	集落	包含層	6C後~7C初	
麻生谷新生園遺跡	集落	溝、住居	6C末~7C初	
貝田C遺跡	集落	落ち込み	6C~7C	
松山C遺跡	集落	柱穴、溝	6C~7C?	
藤橋遺跡	集落	溝	7C前	
三室福浦B遺跡	集落	溝、包含層、鞍部	7C前	
額見町遺跡	集落	不明	7C前半、中葉	
葉師遺跡	集落	住居	7C中	
古府タブノキダ遺跡	集落	柱穴	7C	
末松A遺跡	集落	包含層	7C	
曾祢C遺跡	集落	河道、包含層	7C	
高畠テラダ遺跡	集落	不明	7C	
北安田北遺跡	集落	包含層、溝、住居	7C中~8C中	
寺家遺跡	集落	包含層、溝外、住居	7C~8C (TK47)	
末松ダイカン遺跡	集落	住居	7C末~8C初	
万尾遺跡	集落	不明	7C~8C前	

竈				
遺跡名	性格	層位・遺構	時期	備考
二口かみあれた遺跡	集落	包含層、溝	4C	
千代・能美遺跡	集落	河道	4C	山陰系/小型
漆町遺跡	集落	溝	5C後半	
美岬・千崎B遺跡	集落	柱穴、土坑	5C後半	
潮津金場遺跡	集落	住居、土坑	5C後~末	
柳田遺跡	集落	不明	5C末	
谷内ブンガヤチ遺跡	集落	包含層	5C	
神野遺跡	集落	溝	5C	
神代羽連遺跡	集落	不明	5C末~6C前	
畠田・寺中遺跡	集落	溝	5C末~6C初	
曾福遺跡	集落	不明	6C	
指江B遺跡	集落	河道	6C	
弓波遺跡	集落	川跡	6C	
念佛林南遺跡	集落	住居	6C	
松山C遺跡	集落	柱穴、溝	6C~7C?	
額見町西遺跡	集落	住居	6C末~7C初	
柳田シャコデ遺跡	集落	住居	7C初	
四柳白山下遺跡	集落	包含層	7C初	
徳久荒屋遺跡	集落	包含層、柱穴	7C前	
下開発遺跡	集落	包含層	7C前	
額見町遺跡	集落	住居	7C前半、中葉	
田上西遺跡	集落	豎穴住居	7C	
犀川鉄橋遺跡	集落	不明	7C	
篠原遺跡	集落	土坑、包含層	7C	
春木黍谷遺跡	集落	土坑・包含層	7C後半	
北安田北遺跡	集落	包含層、溝、住居	7C中~8C中	
沢ソウダケ遺跡	集落	不明	7C~8C	
太田ツツミダ遺跡	集落	不明	7C~8C	
寺家遺跡	集落	包含層、溝外、住居	7C~8C	
赤浦やまと遺跡	製塙	製塙遺構	8C	
武部ショウブダ遺跡	集落	包含層	8C	

表3 移動式竈・甕一覧表

疇で捉える^(注20)。

陶質土器についての報告例は、北陸地域で3例を数えることができるが、確実な陶質土器とするには慎重になる必要がある。しかし、初期須恵器としても、技法、文様等の特徴から朝鮮半島の中でも系譜が追えるものもあり、類似品があることから、北陸地域でも特に若狭・越前地域では渡来系工人が移入し在地窯で製作した可能性が高い。

初期須恵器については、散見的に出土しており、古墳・集落に分けて量的変遷を検討する。まず、古墳ではTK208期に増加する傾向がある。各地域で形成された古墳群の中でもこの傾向は、捉えられ、従来の祭式に須恵器の供献具としての役割が高まつたといえよう。それ以降となると、既往研究^(注21)で示されたようにTK23~47期で、より増加することが認められる。器種は、杯、高杯、壺、甕、甕等が出土しているが、甕、甕の出土率が高い。中でも貯蔵具として機能性が優れている甕の有効性が認められていることを示す。一方、集落からはTK73期で散発的に出現する。TK216期からは低調であるものの、TK208期で増加する。特に、三湖台地域では該当時期に分布が密となる現象は、政治的基盤・その後の須恵器生産等を考える上で示唆的である。また、分布状況からは、若狭・越前地域で、新羅系の土器が出土している他、各地域の主な水系の流域ごとに構築された主要な古墳群と集落から出土していることが指摘できる。

ii) 建物

L字形竈を付設する建物は、北陸地域の中でも南加賀地域の特定できる地域で発見されている。この竈については、その系譜を高句麗等の朝鮮半島北部や朝鮮半島南部に求める論考がある^(注22)が、いずれにせよ、系譜を辿れる渡来人の生活痕跡として認めることができる。当該遺構は現在のところ、特定の地域に6世紀末~7世紀初頭に出現し、建物形態を変えながらも構築され、短期間で終焉する状況が看取される。その事象はその地域における政治的・生産的動向を考える上で示唆に富む。

iii) 移動式竈

移動式竈は古墳時代中期に出現し、甕と甕(鍋)をセットとして使用する煮炊具の一つで、新しい生活様式の特徴的な土器といえよう。6世紀になると一定量存在する。形態的特徴を見ていくと、能登地域と加賀地域では地域性が認められ、加賀地域でもさらに小地域によって特性が見出される。また、底部の製作技法にも特徴があり、多様性が認められる。

iv) 甕

移動式竈と甕(鍋)をセットとして使用される煮炊具の一つである。前期には弥生土器の系譜を引いた底部に穿孔した甕を使用していた例が散見されるが、5世紀後半から筒状の体部をもち、底部に孔がある把手のついた土器が増加傾向を示す。特に、指江B遺跡出土の甕の把手には切り込みが認

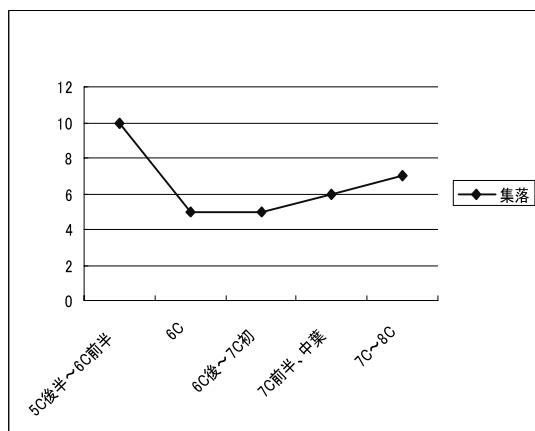


表4 移動式竈 時期別量的変遷図

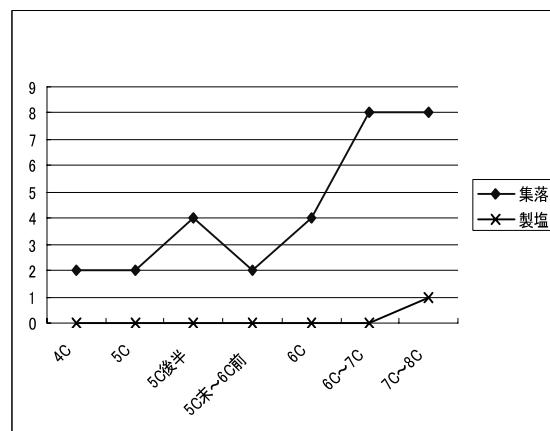


表5 甕 時期別量的変遷図

められ、その製作にあたっては渡来人が関わったと推測する。また、底部に注目すると、中能登町谷内ブンガヤチ遺跡、金沢市神野遺跡、加賀市永町ガマノマガリ遺跡等では多孔が認められるが、他には底部がない形態が多いことが指摘でき、さらに口縁部の形態から各地域に特徴的な様相を捉えることができる。弥生時代からの甕底部を穿孔したものから把手のついた新しい形態の甕への導入期を4世紀から5世紀の中に認めることができよう。さらに、この甕の製作技法には須恵器製作技法を用いた6世紀後葉～7世紀前半にも認められる。

v) 朝鮮系軟質土器

「軟質土器」^(注23)、または「朝鮮系軟質土器」^(注24)で呼称されているが、概念としては後者に相当する。近年、資料が増加しつつあり、再検討を行う必要のあるものも認められる^(注25)。土器は在地で製作されつつも、技法は朝鮮半島に求めることができるため、直接・間接的に渡来人の移入が考えられる。傾向については、4世紀後半～5世紀前半頃に越前地域でみられ、5世紀後半以降、加賀地域に点在する状況が認められる。7世紀代には特定の地域に集中的に認められるが、短期間である。周辺の須恵器窯や古墳群の造営等の政治的・社会的な動向を考える上で示唆的である。

vi) その他の特殊な遺物

特殊な須恵器としては、特殊器台や角杯形土器等がある。これらは5世紀後半から出現し、微量ながら広範囲に点在する。6世紀代の特殊器台は集落から出土しており、朝鮮半島での伝統的な儀式・儀礼を保持した渡来系集団の存在が想起される。一方、古墳からは百濟系の壺や鈴付き高杯等が出土しており、被葬者の系譜を窺う資料が散見される。生産地は各地域にある須恵器窯であり、搬入品は現在認められず、須恵器窯の工人集団の出自や、それらを統括した首長層・消費地である集落の中の構成員との関係性が有機的であることが指摘できる。特筆すべきは、志賀町オハイノヤマA遺跡から出土した土師器の角杯形土器である。能登半島基部の海岸に立地しており、製塩に関係した集団の存在が示唆され、弥生時代後期から古墳時代前期前半頃において渡来人がその地域に移入していたことが窺える。なお、付記ではあるが、7世紀後半～8世紀前には、半瓦当が出土している例が散見される。その周辺には寺院の存在が示唆される。これらは在地で製作されたと考えられ、渡来系専門工人とそれを統括（庇護）する支配者層の存在が想定でき、階層集団の性格も窺える。 (松尾)

3 . まとめにかえて

上記の検討を基に渡来系遺物群の動態をまとめ、考察を行いたい。性格別に傾向を窺うと、集落からの出土が多く、ついで古墳となる。前者からは初期須恵器、移動式壺、角杯形土器が5世紀後半になると散見される。海辺や山間部に分布することは周辺にある材料を基とする生産に関係していることが推測され、生産基盤・手工業生産を考える上で示唆的である。一方、後者では初期須恵器が5世紀後半（特にTK208段階）から増加する傾向^(注26)にあるのは、副葬品として須恵器が供献具としての役割を担ったことで理解できる。各地域での葬送儀礼や祭式に変化が生じたと推察されるが、汎的とはいえないことに往時の状況を示していると考えられよう。また、北陸地域における初期須恵器の移入が即渡来人とはいえないとも、各地域における出土状況を考慮すると無関係とは言い切れない。6世紀代になると、須恵器窯が越前、南加賀、能登、越中の各地域で点在して操業されるようになり、供給が始まる。それまでの葬送・祭式に伴う供献具から供膳具としても機能変化の移行が行われるようになり、各地で生活様式の変移が認められる。7世紀では、須恵器技法でもって土師器の食膳具が製作されるようになり、集落でも量が増加し、分布密度も高くなる。

これらの5世紀後半から各段階にわたって渡来系遺物が生産に関わる遺跡から出土している現象

は、断続的に渡来人の工人が須恵器生産等の手工業生産に関与していたと考えられ^(注27)、生産組織の再編とそれらに影響された生活様式の変化が窺える。

また、初期須恵器と他の遺物群との関係性は注意でき、生活様式の先導役を担っていた可能性を示唆する。初期須恵器の動態と拡散については、断続的かつ継続的に渡来人が移入してきた可能性があり、これらの具体的な検証が課題となる。

以上、渡来系土器群を検討すると、それぞれの時期的変移が重なることが指摘できる。つまり、社会的な変革があったことが認められる。中でも、須恵器の導入と各地域での拡散、土師質土器への須恵器技法導入は、工人や技術の再編（整理・統合）が段階的かつ断続的に行われ、経済的にも政治的介入が強化されたと考えられる。小地域ごとの断続的な渡来系遺物群の移入は政治的支配下における組織の再編・強化を具現化した事象の一側面として考えられよう。

今後の課題としては、詳細な個別実証的な検討を基に集落における構造の変化、鉄器生産・塩生産・玉生産・埴輪生産^(注28)等の手工業生産の動向等といった社会的特質を個別研究から理解する必要がある。さらに、古墳群の趨勢や九州系・畿内系横穴式石室の段階的な影響^(注29)・横穴墓の偏在性を包括した巨視的な政治構造も考えていかなければならない。

（松尾・新村）

おわりに

以上、渡来系遺物群として集成したが、本来ならば、個別に詳細に遺物の特徴を把握し、形式・型式を設定することにより、歴史の縦軸と横軸を明らかにする作業が必要であるが、型式設定や分類を行うには、さらなる資料の増加を待たなければならず、個別実証的な作業までいたらなかった。今後の課題としたい。また、集成したデータの不統一が生じたことや今回、林氏から貴重なデータを提供して頂き、また望月氏から貴重なご教示を頂いたのにもかかわらず、活かしきれなかったのは反省すべきである。今後の自戒としたい。本稿が北陸地域における古墳時代研究の一視点となる契機になれば幸甚である。また、ご批判・ご教示いただければ幸いです。

最後になりましたが、以下の方々にご教授・ご教示頂きました。氏名を記して感謝の意とします。

荒川和哉、大西 順、立原秀明、津田隆志、林 大智

久田正弘、松尾洋平、宮川勝次、望月精司、安中哲徳

【補注】

1. 鈴木靖民編2002『倭国と東アジア』吉川弘文館 その他参考文献を参照。
2. 韓式系土器研究会『韓式系土器研究Ⅰ～Ⅶ』
3. 本稿では、「北陸地域」を便宜的に旧若狭・越前・加賀・能登・越中（糸魚川以西）を一範囲として設定する。
4. 漢哲夫2003『渡来人と古代国家形成』『渡来人』津山郷土博物館
5. 山田邦和1999「須恵器生産系譜論の現状」『考古学に学ぶ 遺構と遺物』同志社考古学大学シリーズⅦ 森浩一・松藤和人編 同志社大学考古学シリーズ刊行会
6. 田辺昭三1981『須恵器大成』角川書店
7. 福井県1986『福井県史』資料編13 考古
8. 川本紀子2003「越前・若狭における韓半島系土器の一様相」『北陸古代土器研究』第10号 北陸古代土器研究会
9. 田嶋明人1987「在地窯の成立と土師器～越前・加賀・能登・越中の状況」『第8回三重シンポジウム 東国における古式須恵器をめぐる諸問題』第Ⅲ分冊北武藏古代文化研究会
10. 吉岡康暢1991『日本海域の土器・陶器（古代編）』六興出版
11. 和歌山県埋蔵文化財研究会1992『古代の壺を考える 第3冊』
12. 横田誠1999「北陸における古墳時代中・後期の様相・南加賀地域における事例を中心として」第46回埋蔵文化財研究集会実行委員会『渡来人の受容と展開 - 5世紀における政治的・社会的变化の具体相 -』
13. 田中昌樹2003「北陸地域の「壺形土製品」について」『富山考古学研究 - 紀要第6号』富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所
14. 石川県立埋蔵文化財センター1982『能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 志賀町中村畠遺跡・志賀町女郎塚遺跡』
15. 同注6文献
16. 入江文敏1988「角杯形土器小考」『網干善教先生華甲記念考古學論集』網干善教先生華甲記念会
17. 望月精司1999「北陸型煮炊具の出現と成立過程 - 加賀地域及び小松市額町遺跡の事例検討を中心として」『北陸の考古学』石川考古学研究会
18. 同注12文献
19. 同注8文献
20. 同注6文献
21. 同注9文献
22. 合田幸美1995「朝鮮半島の壺」『研究紀要』Vol.2 (財) 大阪文化財センター
23. 植野浩三1987「韓式系土器の名称と分類」『韓式系土器研究』1 韓式系土器研究会
24. 今津啓子1994「渡来人の土器」『ヤマトの王権と交流の諸相』古代王権交流5 荒木敏夫編 名著出版
25. 加賀市弓波遺跡出土例では、所属時期が4世紀代に比定されるが、出土状況から5世紀後半の須恵器杯身が付近で出土しており、時期設定についてはこの時期に相当すると考える。また、金沢市二口六丁遺跡出土例には、朝鮮系軟質土器として認められるものもあり（林大智氏ご教示）今後、検証が必要となる。
26. 同注14文献
27. 同注16文献
28. 三浦俊明2006「北陸における須恵器系埴輪の生産」『考古学ジャーナル』No.541 ニューサイエンス社
29. 伊藤雅文1993「北陸地方」『季刊考古学』第45号 雄山閣
伊藤雅文2002「北陸の終末期古墳の特質」『シンポジウム 前方後円墳以後の古墳と週末』第10回東北・関東前方後円墳研究会実行委員会編集 東北・関東前方後円墳研究会

(3・4世紀) 5世紀後半 (3・4世紀含む)	
番号	遺跡名
1	相模矢山遺跡
2	高田遺跡
3	県田C1遺跡
4	東洋丸山遺跡
5	中村焼跡
6	オリノヤマハ遺跡
7	赤瀬古墳群
8	國分瀬井山4号墳
9	矢田遺跡
10	万代岩山遺跡
11	小川ガラガ山古墳
12	水木モニヨ遺跡
13	久木モニヨ遺跡
14	谷内アカヤチ遺跡
15	西原ツツコ遺跡
16	東山古跡
17	二ノカミあれた遺跡
18	竹生野遺跡
19	正方古跡
20	イタタノヤマ3号墳
21	和田寺遺跡
22	城光寺B1号墳
23	寺山古墳
24	神代河遺跡
25	加藤附穴
26	上野1号墳
27	北反神遺跡
28	道林寺遺跡
29	石塚遺跡
30	流瀬御所周辺NO.7遺跡(5・6号墳)
31	若宮B1遺跡
32	飯田寺中遺跡
33	二口六丁遺跡
34	藤川鉢輪遺跡
35	古所クルビ遺跡
36	神津遺跡
37	相川中1号墳
38	寺井山1号墳
39	下原努遺跡
40	和田山古墳群
41	茶臼山古墳群
42	高堂遺跡
43	添野遺跡
44	万代・能美遺跡
45	瀬道金場遺跡
46	大曾瀬D遺跡
47	二子塚古墳群
48	吸坂丸山5号墳
49	二子塚遺跡
50	永田山マガリ遺跡
51	永町遺跡
52	千歳B遺跡
53	千歳B遺跡
54	中川10号墳
55	和田附遺跡
56	上河北遺跡
57	上町生田遺跡
58	大田山古墳 6号万円周溝墓
59	中角遺跡
60	米町遺跡
61	劍持神社隣接地遺跡
62	畠中遺跡
63	村原山2号墳
64	中里跡
65	向山古墳群
66	三生野遺跡
67	西瀬古墳
68	鳥越山古墳

<凡例>
 ● 集落・その他
 ▲ 古墳
 ▲ 烟跡

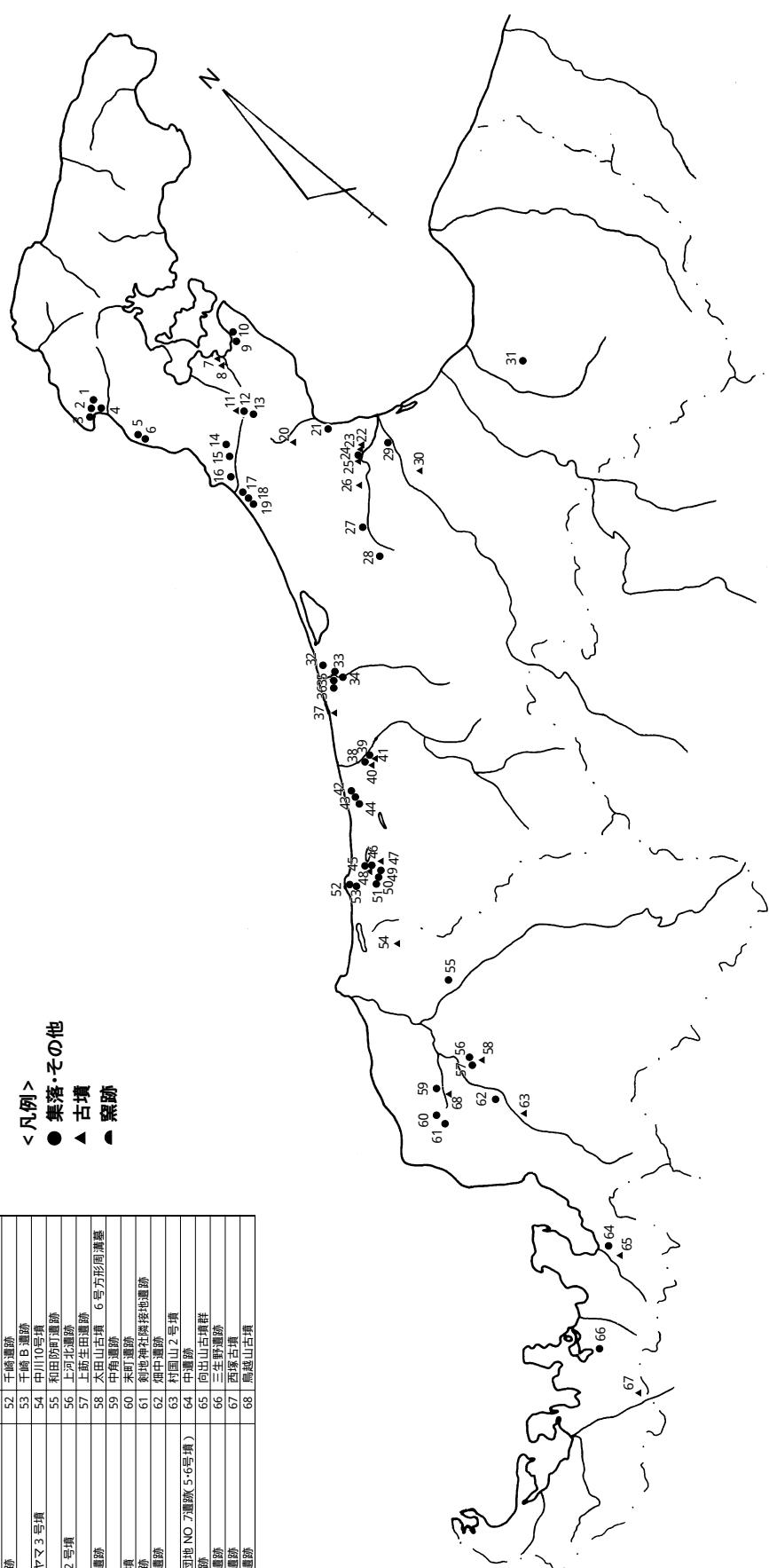
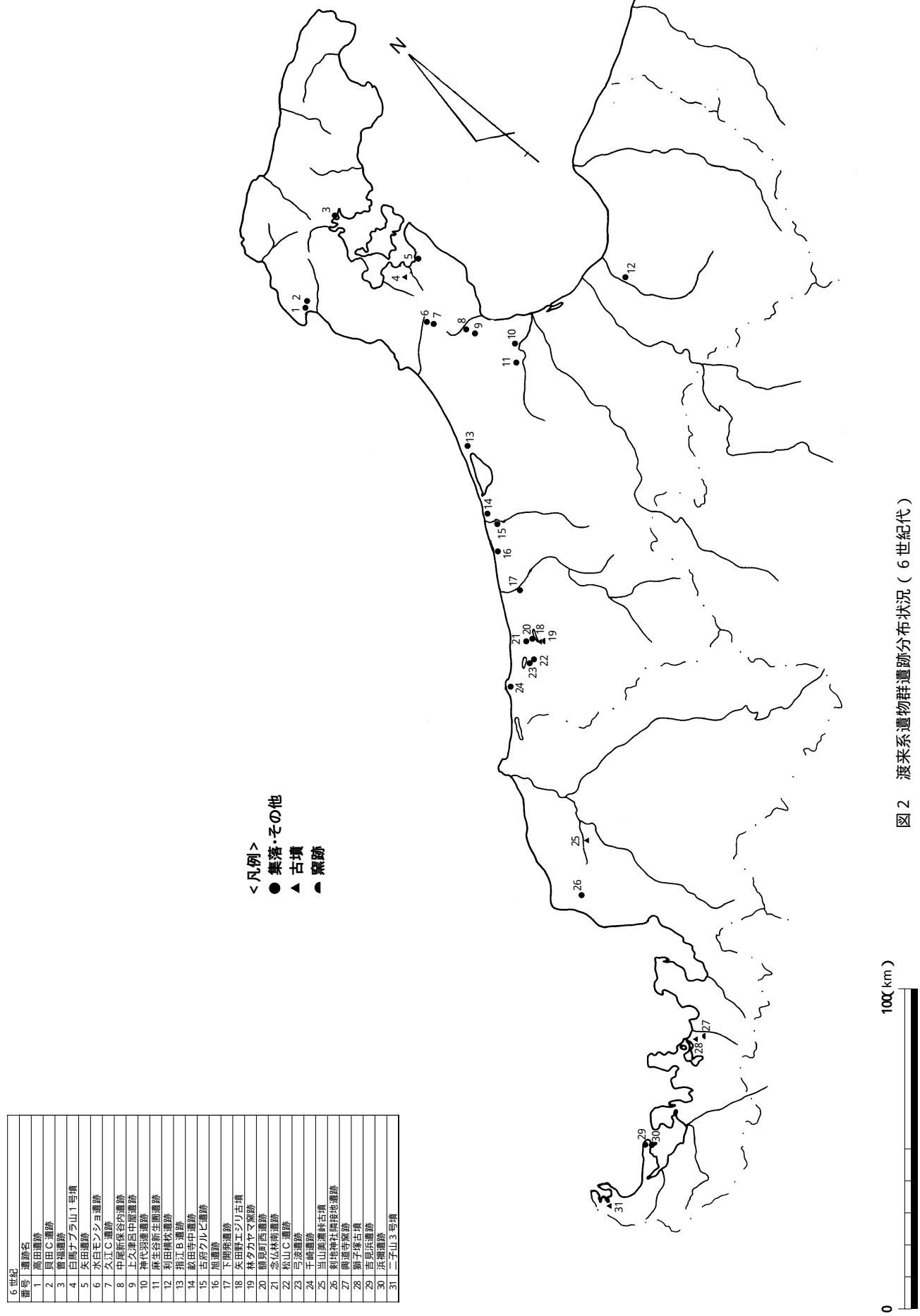


図1 渡来系遺物群遺跡分布状況（3～5世紀）

100(km)
0



7世紀	
番号	遺跡名
1	良田C1遺跡
2	三室船塚遺跡
3	古府タブ
4	腰船跡
5	白馬ナブリ山1号墳
6	青木糸合遺跡
7	氷ソツタケ遺跡
8	凹柳田山1号墳
9	大田ツツミタ遺跡
10	寺家遺跡
11	柳田ニヤニテ遺跡
12	武田シワブタ遺跡
13	高畠アラタ遺跡
14	曾祢C1遺跡
15	万尾船跡
16	上久呂原遺跡
17	麻生主新田遺跡
18	利田村松原遺跡
19	猿島弓根穴
20	高師原遺跡
21	田上三遺跡
22	糸村タケイカン遺跡
23	糸村船跡
24	北安田北浦跡
25	徳久原遺跡
26	下附船跡
27	葉師船跡
28	新島原西遺跡
29	新島原遺跡
30	矢掛野船跡
31	林タカツマ黒跡
32	松山C1遺跡
33	綾原船跡
34	敷世井天山遺跡
35	吉井天山遺跡
36	浜船跡

<凡例>
 ● 集落・その他
 ▲ 古墳
 ▼ 黒跡

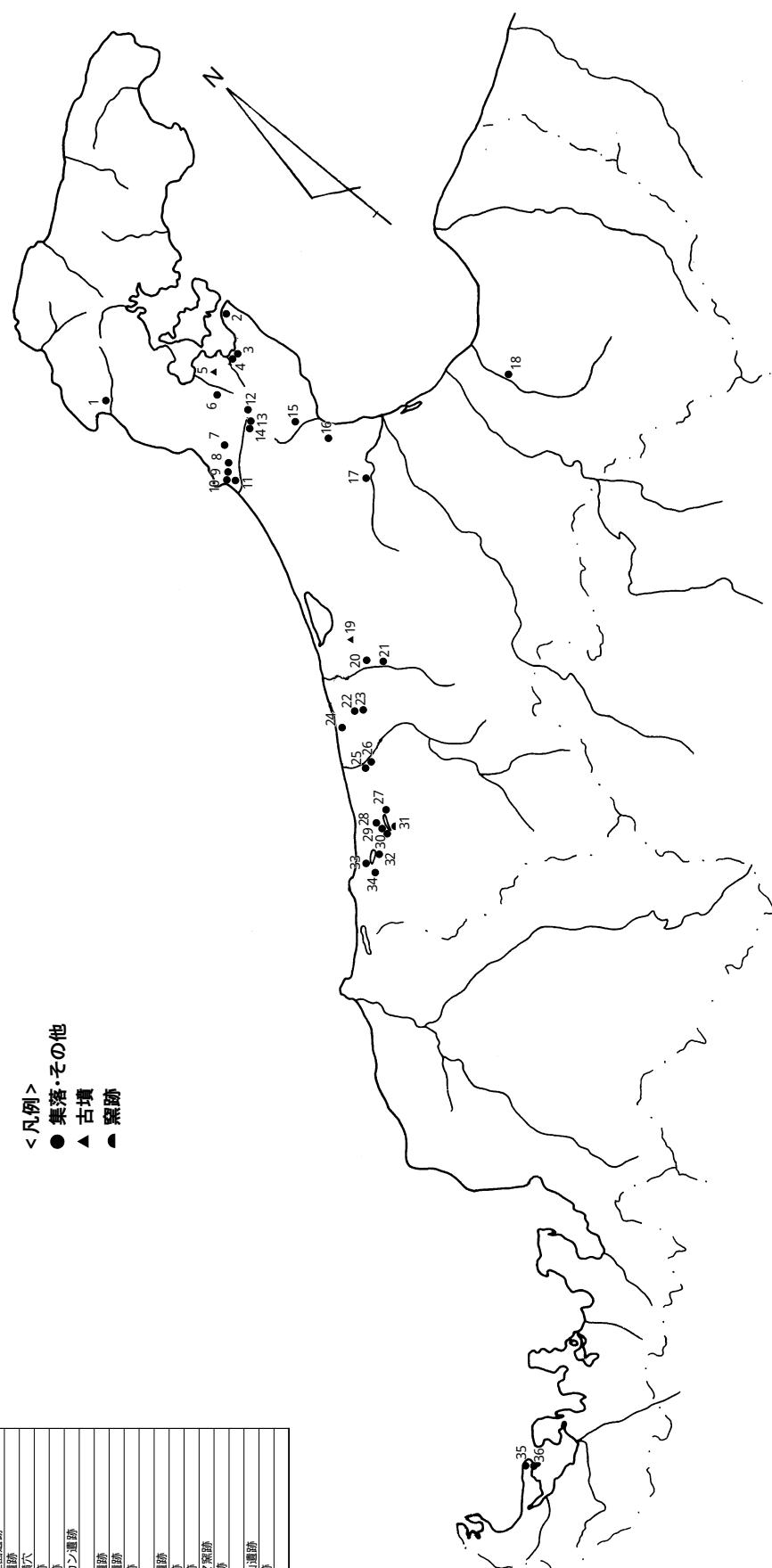


図3 渡来系遺物群遺跡分布状況（7世紀代）

100(km)
0

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立地	性格	出土層位・遺構	器 種 (遺物)	時 期	備 考	文 献
1	若狭	吉見浜遺跡	大飯郡大島 新市町村名	砂丘	集落	不明	土師器 移動式竈	6C後半~7C初		田中昌樹2003 ^a 北陸地域の竈形土製品について『富山考古学研究紀要』第6号富山県立文化財調査事務所
2	浜禰遺跡	大飯郡大島	おおい町 おおい町	砂丘	集落	不明	土師器 移動式竈	6C後半~7C初		福井県1966 ^a 若狭大飯町考古学調査報告 ^a
3	獅子塚古墳	三方郡美浜町鷲市	美浜町 おおひの町	沖積平野	古墳	墳丘	須惠器 角杯	6C初~6C代	興道寺跡物産 ヘンガラ使用	福井県1985 ^a 福井県史資料編13-考古 ^a 上田三平1922 ^a 福井縣史蹟勝跡調査報告 ^a
4	興道寺塚跡	三方郡美浜町鷲市	美浜町 おおひの町	丘陵	窪跡	窪内	須惠器 角杯 (MT15)	6C初~6C代	興道寺跡物産	美浜町教育委員会1980 ^a 興道寺跡物産発掘調査概報 ^a
5	越田遺跡	丹生郡越田町	越前町 おおひの町	沖積地	集落	不明	陶質土器 有蓋高杯	5C代	検証の必要あり	福井県土質料館1981 ^a 須恵器 ^a
6	剣神社隣接地遺跡	丹生郡越田町	越前町 おおひの町	沖積地	集落	不明	須恵器 有蓋高杯	5C後半~6C初		川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
7	中川10号墳	坂井郡金津町中川	あわら町 おおひの町	丘陵	古墳	墳丘 (採集)	須恵器 器台 (TK208)	5C後半		福井県教育委員会1973 ^a 太田山古墳群 ^a
8	西塚古墳	遠敷郡上中町	若狭町 おおひの町	丘陵	古墳	墳丘	須恵器 高杯 (TK208)	5C後半		福井県1991 ^a 「北陸の初期須惠器」 吉岡康陽1991 ^a 日本海の土器(古代・中世編)六興出版
9	三生野遺跡	遠敷郡上中町	若狭町 おおひの町	沖積地	集落	不明	須恵器 台付長頸壺	5C後半		川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
10	二子山3号墳	遠敷郡高浜町	高浜町 おおひの町	丘陵	古墳	不明	須恵器 百济系平底壺	6C初		川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
11	烟中遺跡	鯖江市	越前市 おおひの町	沖積地	集落	不明	須恵器 有蓋高杯 (TK208)	5C後半		福井県教育委員会1975 ^a 太田山古墳群 ^a
12	村国山2号墳	武生市村国	越前市 おおひの町	丘陵	古墳	古墳 (採集)	須恵器 壺、甕 (TK208)	5C後半		福井県1991 ^a 「北陸の初期須惠器」 吉岡康陽1991 ^a 日本海の土器(古代・中世編)六興出版
13	向山古墳1号墳	敦賀市吉河	敦賀市 おおひの町	丘陵	古墳	石室	須恵器 高杯、壺、杯蓋 TK216~TK208	5C後半		吉岡康陽1991 ^a 「北陸の初期須惠器」 日本海の土器(古代・中世編)六興出版
14	向山古墳2号墳	敦賀市吉河	敦賀市 おおひの町	丘陵	古墳	墳丘 (採集)	須恵器 壺、甕 (TK216)	5C後半		吉岡康陽1991 ^a 「北陸の初期須惠器」 日本海の土器(古代・中世編)六興出版
15	中遺跡	敦賀市中町	敦賀市 おおひの町	扇状地	集落	不明	須恵器 高杯、器台、杯身 (TK73~TK208)	5C前半~中頃	検証の必要あり	川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会 (未報告資料に多数の初期須惠器有り)
16	太田山古墳6号方形周溝墓	福井市帆谷他	福井市 おおひの町	丘陵	古墳	墳丘表土	須恵器 高杯 (TK208)	5C後半		福井県教育委員会1973 ^a 太田山古墳群 ^a
17	末町遺跡	福井市未町	福井市 おおひの町	沖積地	集落	不明	須恵器 高杯 (TK208)	5C後半		福井県教育委員会1973 ^a 太田山古墳群 ^a
18	上筋生田遺跡	福井市上河北町・ 上筋生田町	福井市 おおひの町	沖積平野	集落	不明	須恵器 大型甕 (TK216~N46)	5C後半		福井市1990 ^a 和田防町遺跡『福井市史・資料編考古古 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
19	上河北遺跡	福井市上河北町	福井市 おおひの町	沖積地	不明	不明	須恵器 甕、壺、杯蓋 (TK208)	5C後半		吉岡康陽1991 ^a 「北陸の初期須惠器」 日本海の土器(古代・中世編)六興出版
20	和田防町遺跡	福井市和田中町	福井市 おおひの町	沖積平野	集落	不明	朝鲜系軟質土器 甕	5C前半		福井市1990 ^a 和田防町遺跡『福井市史・資料編考古古 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
21	当山美濃峰古墳	丹生郡清水町	福井市 おおひの町	丘陵	古墳	不明	陶質土器 高杯	6C前半	検証の必要あり	川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会 川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
22	中角遺跡	福井市中角町	福井市 おおひの町	沖積地	集落	不明	朝鲜系軟質土器 甕	4C後半~ 5C後半		川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会 川本紀子2003 ^a 越前・若狭における鶴半島系土器の一樣相 『北陸古代土器研究』第10号北陸古代土器研究会
23	鳥越山古墳	永平寺町	福井市 おおひの町	丘陵	古墳	不明	須恵器 有蓋高杯、甕 器台、杯蓋 (ON46)	5C後半		福岡教育委員会・永平寺町教育委員会2005 『舟舟山古墳・鳥越山古墳・二本松山古墳』 『宇ノ内町指江遺跡』 石川県教育委員会・財・石川県埋蔵文化財センター2002 『宇ノ内町指江遺跡』 石川県教育委員会・財・石川県埋蔵文化財センター2002 『宇ノ内町指江遺跡』
24	加賀指江江B遺跡	宇ノ氣町	かほく市 おおひの町	丘陵裾	集落	河道	須恵器 特殊器台 土師器 移動式竈、瓶、特殊器台 朝鮮系軟質土器 把手	5C後半~6C代	在地産 切り込みあり	

表7 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立地	性格	出土層位・遺構	器 種(遺物)	時 期	備 考	文 献
25	加賀	大根布砂丘遺跡	内瀬町大根布町 新市町村名	砂丘	集落	不明	土師器 柄手付椀 須恵器 無蓋高杯、甕、杯(TK208)など 移動式甕、瓶	5~6C 代		内瀬町1982 ^a 内瀬町史
26		畝田・寺中遺跡	金沢市畝田西	冲積平野	集落	溝	須恵器 土師器 須恵器 瓶	5C後半~6C 初	鉄滓あり	金沢市2004 ^a 金沢市史 資料編考古
27	古府	クルビ遺跡	金沢市古府町	金沢市	冲積平野	集落	溝、竪穴建物 須恵器 土師器	5C後半~6C 初		石川県教育委員会1972 ^a 金沢市古府町ルビ遺跡(第1・2次)
28	犀川	鉄橋遺跡	金沢市大豆田本町・本江町	金沢市	洪積台地	集落	不明 須恵器 土師器 甕	5C 中~後半~ 7C代		(財)石川県埋蔵文化財センター1982 ^a 犀川鉄橋遺跡 ^a
29	神野	遺跡	金沢市神野町	金沢市	冲積平野	集落	溝 土師器 甕	5C 代	底面は多孔 把手に切り込み 口縁部は受口 頸部は格子叩き	金沢市埋蔵文化財センター2001 ^a 金沢市神野遺跡 ^a
30	田上	西遺跡	金沢市田上町	金沢市	冲積平野	集落	竪穴建物 土師器 甕	7C 代	把手に切り込み 口縁部は受口 頸部は格子叩き 半瓦当	金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財センター2000 ^a 金沢市田上西遺跡・田上遺跡群 ^a
31	二口	六丁遺跡	金沢市二口町	金沢市	冲積地	集落	不明 須恵器 平底短頸甕	5C 代	古墳は現在消滅 松任市教育委員会1967 ^a 加賀三浦遺跡の調査	金沢市2003 ^a 金沢市二口六丁遺跡 ^a
32	環	輪8号横穴	金沢市環輪町	金沢市	冲積平野	横穴墓	包含層 半瓦当	7C前半	非在地産?検証 の必要あり	金沢市1999 ^a 金沢市史 資料編19考古
33	高岡	町遺跡	金沢市高岡町	金沢市	台地	集落	古墳 須恵器 杯、甕 TK216	7C後半	古墳は現在消滅 松任市教育委員会1992 ^a 北安庄北遺跡 ^a	
34	相川	中1号墳	松任市北相川	白山市	冲積地	集落	墳丘 須恵器 杯、甕	5C後半		松任市教育委員会1967 ^a 旭遺跡群 ^a
35	北安田	北遺跡	松任市北安田町	白山市	冲積地	集落	包含層 溝、竪穴建物 須動式甕	7C中頃~ 8C中頃		石川県教育委員会1967 ^a 加賀未松遺跡 ^a
36	旭	遺跡	松任市一塚町	白山市	扇状地	集落	包含層 竪穴建物 土師器 須動式甕	6C 代	羽口あり	石川県教育委員会1995 ^a 旭遺跡群 ^a
37	末松	A遺跡	野々市市末松・中林	野々市市町	扇状地	集落	包含層 竪穴建物 土師器 須動式甕	7C 代		石川県教育委員会1992 ^a 野々市市未松遺跡群 ^a
38	末松	ダイカン遺跡	野々市市末松	野々市町	扇状地	集落	包含層 竪穴建物 土師器 須動式甕	7C末~8C 初		(財)石川県埋蔵文化財センター2005 ^a
39	下開発	遺跡	辰口町下開発	能美市	扇状地	集落	包含層 竪穴建物 土師器 須動式甕、瓶	5C末~6C前半~ 7C前半	竪穴未報告	(財)石川県埋蔵文化財センター1988 ^a 辰口西部遺跡群 ^a
40	徳久	荒屋遺跡	辰口町下開発	能美市	扇状地	集落	包含層 柱穴	7C 前半		(財)石川県埋蔵文化財センター1988 ^a 辰口西部遺跡群 ^a
41	茶臼山	1号墳	辰口町下開発	能美市	丘陵	古墳	須動式甕 須恵器 台脚付短頸甕 TK216~ON46	5C 後半		辰口町教育委員会1982 ^a 辰口町下開発茶臼山古墳群 ^a
42	茶臼山	3号墳	辰口町下開発	能美市	丘陵	古墳	周溝 須動式甕 大型甕 TK208	5C 後半		辰口町教育委員会1982 ^a 辰口町下開発茶臼山古墳群 ^a
43	茶臼山	6号墳	辰口町下開発	能美市	丘陵	古墳	須動式甕 須恵器 有蓋高杯 TK208	5C 後半		辰口町教育委員会1982 ^a 辰口町下開発茶臼山古墳群 ^a
44	茶臼山	12号墳	辰口町下開発	能美市	丘陵	古墳	須動式甕 土師器 把手付椀	5C 後半		辰口町教育委員会2004 ^a 辰口町下開発茶臼山古墳群 ^a
45	和田山	4号墳	寺井町和田	能美市	丘陵	古墳	周溝 須動式甕 有蓋高杯、杯甕(TK208)	5C 後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 ^a 加賀能美古墳群 ^a
46	和田山	5号墳	寺井町和田	能美市	丘陵	古墳	須動式甕 須恵器 甕 TK216~ON46	5C 後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 ^a 加賀能美古墳群 ^a
47	和田山	22号墳	寺井町和田	能美市	丘陵	古墳	周溝 須動式甕 甕 TK208	5C 後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 ^a 加賀能美古墳群 ^a
48	寺井山	1号墳	寺井町寺井	能美市	丘陵	古墳	須動式甕 須恵器 甕 TK208	5C 後半		石川県寺井町・寺井町教育委員会1997 ^a 加賀能美古墳群 ^a
49	額見町	遺跡	小松市額見町	小松市	台地	集落	包含層 竪穴建物 朝鮮系軟質土器 甕	7C前半~中頃	鉄滓あり	小松市埋蔵文化財センター1998 ^a 額見町遺跡(額見町遺跡 A 地区)
50	額見町	西遺跡	小松市額見町	小松市	台地	集落	包含層 竪穴建物 土師器 甕	6C末~7C 初	竪穴建物	(財)石川県埋蔵文化財センター2002 ^a 額見町西遺跡

表8 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立地	性格	出土層位・遺構	器 種 (遺物)	時 期	備 考	文 献	
										新市町村名	古墳
51	加賀 矢 田 野 遺 跡	小松市月津町	小松市	台地	集落	豎穴建物 *L字形竪	須惠器 有蓋高杯、瓶 土師器 鈴台付高杯	7C 前半	豎穴建物 2棟	荒木麻理子2005「矢田野遺跡」『石川県埋蔵文化財情報』第13号	(財)石川県埋蔵文化財センター
52	矢 田 野 ジ リ 古 墳	小松市月津町	小松市	台地	集落	豎穴建物 *L字形竪	須惠器	6C 前半	円筒埴輪(倒立技法)	小松市教育委員会1992「矢田野ジリ古墳」	人物埴輪、馬形埴輪等
53	念 仏 林 南 遺 跡	小松市月津町	小松市	台地	集落	豎穴建物 *L字形竪	土師器 甌	6C 代	鉢津あり	小松市教育委員会1999「念仏林南遺跡」	小松市教育委員会1998「島遺跡」
54	粟 師 遺 跡	小松市矢崎町	小松市	台地	集落	豎穴建物 *L字形竪	土師器 移動式竪	7C 中頃		小松市教育委員会2003「粟師遺跡」	
55	鳥 遺 跡	小松市鳥町	小松市	台地	集落	豎穴建物 須惠器 甌	土師器 移動式竪	5C後半~6C代	鉢津あり	小松市教育委員会1998「島遺跡」	小松市教育委員会1998「島遺跡」
56	高 堂 遺 跡	小松市高堂	小松市	冲積平野	集落	包含層	須惠器 杯窓 TK216)	5C 後半		石川県立埋蔵文化財センター1981「高堂遺跡」	
57	添 町 遺 跡	小松市漆町・金屋町 白江町・若杉町	小松市	冲積地	集落	溝	須惠器 直口壺、甌 TK216)	5C 後半	鉢津あり	(財)石川県埋蔵文化財センター1989「添町遺跡」	IV-a
58	千 代・能 美 遺 跡	小松市能美町	小松市	冲積平野	集落	河道	土師器 甌	4~5C 代		林大智2002「千代・能美遺跡」『石川県埋蔵文化財情報』第7号	(財)石川県埋蔵文化財センター
59	林 タ カ ヤ マ 黒 遺 跡	小松市林	小松市	丘陵	黒跡	黒内	須惠器 平底短頸甌(百濟系?) 有蓋三足甌 土師器 甌	6C 末~7C 初	甌は把手に切り込み有り	小松市教育委員会1995「林タカヤマ黒跡」	
60	千 崎 遺 跡	加賀市美岬町千崎	加賀市	洪積台地	集落	豎穴建物	須惠器 杯身 TK216)	5C後半~6C初		石川県教育委員会1972「加賀市千崎・大畠遺跡」	
61	美 岬・千 崎 B 遺 跡	加賀市岬浜	加賀市	洪積台地	集落	柱穴 土坑	土師器 移動式竪 朝鮮系吹賣土器 甌	5C 後半		(財)石川県埋蔵文化財センター1998「美岬・千崎遺跡」	
62	己 波 遺 跡	加賀市弓波町・ 七日市町・八日市町	加賀市	冲積平野	集落	川跡	土師器 移動式竪 朝鮮系吹賣土器 甌	6C 代	軸軸土器の裏体部に格子目タスキあり	石川県教育委員会「財 石川県埋蔵文化財センター2003「己波遺跡」」	
63	松 山 C 遺 跡	加賀市松山町	加賀市	冲積平野	集落	柱穴 溝	土師器 移動式竪、甌	6C~7C 代	錐羽口、鉢深 銅製品あり	(財)石川県埋蔵文化財センター2001「加賀市松山C遺跡」	
64	敷 地 天 神 山 遺 跡	加賀市敷地寺岡町	加賀市	洪積台地	集落	豎穴建物	須惠器 角杯 土師器 把手付椀	7C 初	角杯は在地産	石川県立埋蔵文化財センター1982「敷地天神山遺跡」	(志賀町中村細田遺跡、志賀町女郎家遺跡)
65	篠 肩 遺 跡	加賀市篠原町	加賀市	洪積台地	集落	包含層 土坑	土師器 甌	7C 代		石川県立埋蔵文化財センター1987「篠肩遺跡」	
66	潮 津 金 場 遺 跡	加賀市潮津町	加賀市	平野	集落	豎穴建物 土坑	土師器 甌	5C 後半		(財)石川県埋蔵文化財センター1997「潮津遺跡群」	
67	永 町 遺 跡	加賀市大聖寺永町	加賀市	冲積地	集落	土坑	須惠器 杯窓 TK216)			吉岡康揚1991「北陸の初期須惠器」 日本海城の土器(古代 中世編)アーネスト出版	
68	永 町 カ ノ マ カ り 遺 跡	加賀市大聖寺永町	加賀市	冲積地	集落	土坑	須惠器 甌 ON46~TK208)	5C 後半		石川県立埋蔵文化財センター1983「敷地天神山遺跡群」	
69	二 子 塚 遺 跡	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	集落	豎穴建物	須惠器 甌 ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡調査概報」	
70	二 子 塚 10 号 墳	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 甌 ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡詳調査概報」	
71	二 子 塚 16 号 墳	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 甌 ON46~TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡詳調査概報」	
72	二 子 塚 19 号 墳	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 杯身、器台、甌 ON46)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡詳調査概報」	
73	二 子 塚 20 号 墳	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 甌 ON46~TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡詳調査概報」	
74	二 子 塚 21 号 墳	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 短頸甌 ON46~TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡詳調査概報」	
75	二 子 塚 23 号 墳	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 甌 ON46~TK208)	5C 後半		石川県教育委員会1974「加賀市二子塚遺跡詳調査概報」	

表9 渡来系遺物一覧表

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立地	性格	出土層位・遺構	器 種 (遺物)	時 期	備 考	文 献
76	加賀 二 子 塚	29 号 墓	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 壺 ON46)	5C 後半	石川県教育委員会1974 ^a 加賀市二子塚遺跡群調査概報 ^a
77	二 子 塚	33 号 墓	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 杯(ON46~TK208)	5C 後半	石川県教育委員会1974 ^a 加賀市二子塚遺跡群調査概報 ^a
78	二 子 塚	36 号 墓	加賀市二子塚	加賀市	冲積地	古墳	周溝	須惠器 壺(TK208)	5C 後半	石川県教育委員会1974 ^a 加賀市二子塚遺跡群調査概報 ^a
79	吸 板 丸 山	5 号 墓	加賀市吸板丸山	加賀市	丘陵裾	古墳	周溝	須惠器 杯(TK208塚)	5C 後半	金製細環 人物埴輪・鳥形土製品
80	大 菅 波	大 菅 波	加賀市大菅波	加賀市	冲積平野	集落	溝	須惠器 杯・瓶(TK216)	5C 後半	加賀市教育委員会1991 ^a 吸板丸山古墳群 ^a
81	能 登	武部 ショウウブダ遺跡	鹿島郡鹿島町武部	中能登町	扇状地	集落	包含層	土師器 甌	6C~7C 代	輪羽口・鉄滑(あり) 『武部ショウウブダ遺跡』 ^a
82	小 竹 ガ ラ ボ	山 古 墳	鹿島郡鹿島町小竹	中能登町	低丘陵裾部	古墳	填丘	須惠器 器台・甌(TK208)	5C 後半	石川県教育委員会1985 ^a 小竹ガラボが山古墳・小竹平遺跡 ^a
83	水 白 モン シ ョ	遺 跡	鹿島郡鹿島町水白	中能登町	扇状地	集落	包含層	土師器 移動式甌	5C 後半~ 6C 前半	石川県立埋蔵文化財センター1989 ^a 水白モンシヨ遺跡 ^a
84	久 江 C 遺 跡	鹿島郡鹿島町久江	中能登町	山地斜面	散布地	包含層	土師器 移動式甌	5C~6C 代	(財)石川県埋蔵文化財センター2000 ^a 久江C遺跡『鹿島町久江遺跡』 ^a	
85	曾 祢 C 遺 跡	鹿島郡鹿島町曾祢	中能登町	扇状地	集落	包含層	土師器 移動式甌	7C 代	(社)石川県埋蔵文化財保存協会1995 ^a 曾祢C遺跡 ^a	
86	青 畠 テ ラ ダ 遺 跡	鹿島郡鹿島町高畠	中能登町	冲積地	平地	集落	不明	土師器 移動式甌	7C 代	(社)石川県埋蔵文化財保存協会1994 ^a 青畠サシタダ遺跡・高畠 古墳時代の窓を考える(第2分冊) ^a
87	芦 川 八 幅 遺 跡	鹿島郡鹿島町芦川	中能登町	冲積地	集落	探集	土師器 移動式甌	5C~6C 代	鹿島町1966 ^a 鹿島町史 ^a	
88	大 横 バ ス 停 遺 跡	鹿島郡鹿屋町大横	中能登町	冲積地	集落	包含層	土師器 甌	7C 後半	埋蔵文化財研究会1993 ^a 第3回 埋蔵文化財研究集会 古墳時代の窓を考える(第2分冊) ^a	
89	春 木 素 谷 遺 跡	鹿島郡鹿島町素谷	中能登町	丘陵裾	集落	包含層	土師器 甌	7C 後半	鳥屋町教育委員会1995 ^a 春木素谷遺跡・春木素谷遺跡 ^a	
90	沢 ソウダケ 遺 跡	鹿島郡鹿西町金丸	中能登町	扇状地	集落	不明	土師器 甌	7C~8C 代	鹿西町教育委員会2003 ^a 沢ソウダケ遺跡・宮地遺跡 ^a	
91	合 内 フ ァ ガ ヤ チ 遺 跡	鹿島郡鹿西町内・杉谷	中能登町	丘陵裾	集落	包含層	土師器 甌	4~5C 代	把手に切り込み 底面は、多孔 ^a	
92	寺 家 遺 跡	羽咋市寺家町・柳町	羽咋市	砂丘	集落	包含層	土師器 移動式甌(TK47)	7C~8C 代	移動式甌の窓があり (財)石川県立埋蔵文化財センター1997 ^a 寺家遺跡 ^a	
93	柳 田 シ ャ コ デ 遺 跡	羽咋市柳田町	羽咋市	台地	集落	豎穴建物	土師器 甌	7C 初	把手に切り込み (財)石川県立埋蔵文化財センター1984 ^a 柳田シャコデ遺跡 ^a	
94	四 柳 白 山 下 遺 跡	羽咋市四柳町	羽咋市	扇状地	集落	包含層	土師器 甌	7C 初	鉄津・輪の羽口あ 石川県教育委員会ミッコ遺跡(第2次調査) ^a 石川県埋蔵文化財情報第2号 ^a	
95	四 柳 ミ ッ コ 遺 跡	羽咋市四柳町	羽咋市	扇状地	集落	豎穴建物	須惠器 無蓋高杯・甌(TK73~TK208)	5C 中頃	林大智1999 ^a 四柳ミッコ遺跡 ^a (財)石川県埋蔵文化財センター1984 ^a 柳田シャコデ遺跡 ^a	
96	太 田 シ ツ ミ ダ 遺 跡	羽咋市太田町	羽咋市	冲積地	集落	不明	土師器 甌	7C~8C 代	羽咋市教育委員会1995 ^a 太田ツミダ遺跡 ^a	
97	長 者 川 遺 跡	羽咋市兵庫町・松ヶ下	羽咋市	冲積低地	集落	包含層	土師器 移動式甌	6C~7C 代	羽咋市教育委員会1995 ^a 長者川遺跡 ^a	
98	正 友 遺 跡	押水町正友	押水町	丘陵	集落	不明	須惠器 壺(ON46)	5C 後半	石川県郷土資料館1984 ^a 須惠器 ^a	
99	竹 生 野 遺 跡	押水町竹生野	宝達志水町	宝達志水町	集落	包含層	須惠器 壺(ON46~TK216)	5C 後半	石川県立埋蔵文化財センター1980 ^a 竹生野遺跡 ^a	
100	二 口 かみ あ れ た 遺 跡	志雄町二口	宝達志水町	冲積地	集落	包含層	土師器 甌	4 C 代	志雄町教育委員会1995 ^a 二口かみあれた遺跡(第2次) ^a	
101	越 中 開 ケ 丘 中 遺 跡	富山市開ヶ丘	富山市	丘陵	集落	不明	土師器 移動式甌	不明	富山市教育委員会2003 ^a 富山市開ヶ丘中遺跡・開ヶ丘孤谷Ⅲ遺跡発掘調査報告書 ^a	
102	伝 福 居 古 墓	富山市福居	富山市	冲積地	古墳	不明	陶質土器 台付壺	5 C~6 C 代	石川県郷土資料館1981 ^a 須惠器 ^a	

No.	地域	遺跡名	所 在 地	立地	性格	出土層位・遺構	器 種(遺物)	時 期	備 考	文 献
103	越中 呂 宮 B 遺 跡	富山市立山町若宮 新市町村名	富山市	扇状地	集落	包含層 竪穴建物	須惠器 杯蓋・杯身、甕 (TK208)	5C 後半		富山県教育委員会1982 ^a 北陸自動車道遭跡調査報告 ^a (立山町 土器・石器編)
104	流 通 業 務 団 地 NO.7遺跡(5号 境)	射水郡大門戸戸田 小杉町青井谷	射水市	丘陵	古墳	須惠器 甕 (TK216)		5C 後半		富山市教育委員会1982 ^a 小杉流通業務地内遭跡群第3・4次概要 ^a
105	流 通 業 務 団 地 NO.7遺跡(6号 境)	射水郡大門戸戸田 小杉町青井谷	射水市	丘陵	古墳	須惠器 有蓋高杯 (TK216)		5C 後半		富山市教育委員会1982 ^a 小杉流通業務地内遭跡群第3・4次概要 ^a
106	遭 林 寺 1 遺 跡	小矢部市遭林寺	小矢部市	冲積地	集落	須惠器 杯身 (TK73)		5C 後半		富山市教育委員会1978 ^a 日の宮遭跡発掘調査報告書 ^a
107	中尾新保谷内遺跡	氷見市大野・中尾	氷見市	沖積平野	集落	包含層	須惠器 杯身、甕、杯蓋 (TK216)	6C 代		富山市文化振興財團埋蔵文化財調査事務所2004 ^a 埋蔵文化財調査概要 ・平成15年度 ^a
108	中 谷 内 遺 跡	氷見市中谷内	氷見市	沖積平野	集落	包含層	土師器 移動式甕	5C - 6C 代		富山市文化振興財團埋蔵文化財調査事務所2005 ^a 埋蔵文化財調査概要 ・平成16年度 ^a
109	上久津呂中屋遺跡	氷見市上久津呂	氷見市	沖積平野	集落	包含層	須惠器 角杯	6C - 7C 代		富山市文化振興財團埋蔵文化財調査事務所2004 ^a 埋蔵文化財調査概要 ・平成15年度 ^a
110	1ヨダノヤマ3号 墳	氷見市上田	氷見市	丘陵	古墳	須惠器 杯蓋、甕、甕、杯身 (TK208)		5C 後半		富山市文化振興財團埋蔵文化財調査概要 - 平成16年度 ^a
111	神 代 羽 連 遺 跡	氷見市神代	氷見市	冲積地	集落	不明	土師器 移動式甕、甕	5C 末 ~ 6C 前半		氷見市2002 ^a 「ヨダノヤマ3号墳」氷見市立博物館年報16号 ^a
112	柳 田 遺 跡	氷見市柳田	氷見市	砂洲	集落	不明	土師器 移動式甕、甕	5C 末		氷見市2002 ^a 「ヨダノヤマ3号墳」氷見市立博物館年報16号 ^a
113	麻生谷新生園遺跡	高岡市麻生谷	高岡市	冲積平野	集落	須惠器 墳丘 周溝				大野究1998 ^a 「ヨダノヤマ3号墳」氷見市立博物館年報16号 ^a
114	城 光 寺 B 2 号 墳	高岡市城光寺	高岡市	丘陵	古墳	須惠器 甕 (ON46 ~ TK208)		5C 後半		氷見市2002 ^a 「ヨダノヤマ3号墳」氷見市立博物館年報16号 ^a
115	寺 山 古 墳	高岡市城光寺	高岡市	丘陵	古墳	須惠器 杯身、高杯、杯蓋 (TK208)		5C 後半		高岡市教育委員会1997 ^a 麻生谷遺跡・麻生谷新生園遺跡調査報告 ^a
116	加 納 構 穴	西砺波郡福岡町加納	高岡市	梯状墓	須惠器 杯身、杯蓋、台付長頸甕、高杯、提瓶		6C 後半 ~ 7C 代			高岡市教育委員会1958 ^a 高岡市埋蔵文化財概報 ^a
117	上 野 1 号 墳	西砺波郡福岡町上野	立山市	丘陵	古墳	須惠器 大型甕 (TK216)		5C 後半		高岡市教育委員会1958 ^a 高岡市埋蔵文化財概報 ^a
118	利 田 横 枕 遺 跡	立山市利田横枕	立山市	冲積平野	集落	包含層	土師器 移動式甕、把手付甕	6C 後半 ~ 7C 初		富山県1972 ^a 富山県史 考古編
119	越後 蠟 子 山 古 墳 群	南魚沼郡六日町余川	南魚沼市	丘陵	古墳	不明	須惠器 大型甕 (TK208)	5C 後半		富山県1972 ^a 富山県史 考古編
120	飯 細 山 古 墳 群	南魚沼郡六日町余川	南魚沼市	丘陵	古墳	不明	須惠器 甕 (TK208)	5C 後半		金子拓男1977 ^a 「伊予郡の古墳」 ^a 南魚沼 ^a
121	余 川 中 道 遺 跡	南魚沼郡六日町余川	南魚沼市	冲積地	集落	須惠器 杯蓋・杯身、甕、高杯、甕		5C 後半	新潟県教育委員会・(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団2005 余川中道遺跡 ^a 1	
122	下 山 1 号 墳	南魚沼郡大和町浦佐	南魚沼市	丘陵	古墳	石室内	須惠器 大型甕 (TK208)	5C 後半		中川成夫1953 ^a 「新潟県魚沼川流域古墳群の調査」立教大学
123	下 山 3 号 墳	南魚沼郡大和町浦佐	南魚沼市	丘陵	古墳	石室内	須惠器 甕 (TK208)	5C 後半		中川成夫1963 ^a 「新潟県魚沼川流域古墳群の調査」立教大学
124	田 伏 遺 跡	糸魚川市田伏	糸魚川市	冲積地	集落	包含層	須惠器 杯身 (TK216)	5C 後半		糸魚川市教育委員会1972 ^a 「田伏玉作遭跡」

表11 渡来系遺物一覧表

参考文献

- 中司照世1977「加賀における古墳時代の展開」『古代文化』224号(29 9)(財)古代学協会
- 西谷正1979「日本における韓式土器・陶器」『世界陶磁全集』17韓国古代 小学館
- 帝塚山考古学研究所1982帝塚山考古学研究所設立記念『日・韓古代文化の流れ』
- 段熙麟1986『渡来人の遺跡を歩く(山陰・北陸編)』六興出版
- 今津啓子1987「大阪湾岸地域出土の朝鮮系軟質土器」『東アジアの考古と歴史』下 岡崎敬先生退官記念事業会 同朋会
- 江浦洋1988「日本出土の統一新羅系土器とその背景」『考古学雑誌』第74号第2号 日本考古學会
- 田嶋明人・小島芳孝1989「加賀・能登における古代手工業生産の様相」『北陸の古代主工業生産』北陸古代手工業生産史研究会 真陽社
- 北野博司・池野正男1989「北陸における須恵器生産」『北陸の古代主工業生産』北陸古代手工業生産史研究会 真陽社
- 石川県考古学研究会編1998石川県考古資料調査・集成事業報告書『祭祀具』
- 都出比呂志1991「日本古代の国家形成論序説 前方後圓墳体制の提唱」『日本史研究』343日本史研究会
- 木下亘1991「陶質土器とその分布」『古墳時代の研究』第6巻石野・岩崎他編 雄山閣
- 龜田修一1993「考古学から見た渡来人」『古代文化談叢』第30集 九州古文化研究会
- 堀田啓一1993「渡来人 大和国を中心に」『古墳時代の研究』第13巻 石野博信・岩崎卓也他編 雄山閣
- 荒木敏夫編1994『ヤマト王権と交流の諸相』名著出版
- 富山県埋蔵文化財センター1994『古代の須恵器 新技術の伝来』
- 松原弘宣編1995『瀬戸内海地域における交流の展開』名著出版
- 石川県立歴史博物館1996『波濤をこえて 古代・中世の東アジア交流』
- 宮島了誠編1997『季刊考古学 渡来系氏族の古墳と寺院』第60号 雄山閣
- 林大智1999「石川県における農具の鉄器化と手工業生産の導入について」『石川県考古資料調査・集成事業報告書 農工具』石川考古学研究会
- 石川県立歴史博物館2000『飛鳥の王権と加賀の渡来人』日韓国際シンポジウム報告書
- 望月精司2000「小松市額見町遺跡の調査」『日本歴史』2月号 吉川弘文館
- まつおか越の国伝説実行委員会2001『古墳時代の伽耶と倭 繼体大王時代の日韓交流』
- 龜田修一2001「出雲・石見・隱岐の朝鮮系土器 古墳時代資料を中心に」『斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ 蟹沢遺跡・上沢Ⅲ遺跡・古志本郷遺跡Ⅲ』 国土交通省中国地方整備局出雲工事事務所・島根県教育委員会
- 花田勝広2002『古代の鉄生産と渡来人 倭政権の形成と生産組織』雄山閣
- 龜田修一編2003『古墳時代中期・後期の土器』『考古資料大観』第3巻 小学館
- 林大智2004『鉄製品』『八里向山遺跡群』石川県小松市教育委員会
- 白石太一郎・上野祥史編2004『古代東アジアにおける倭と伽耶の交流』国立歴史民俗博物館研究報告第110集 国立歴史民俗博物館
- 福岡町教育委員会2005『ふくおかの飛鳥時代を考える~富山、能登の横穴墓からのアプローチ~』ふくおか歴史文化フォーラム資料集
- 龜田修一2005「地域における渡来人の認定方法 豊前上毛地域を例として」『九州における渡来人の受容と展開』第8回九州前方後圓墳研究会実行委員会
- 小林昌二・小島芳孝編2005『日本海域歴史体系』第一巻古代編Ⅰ 清文堂
- 坂野和信2005「畿内と東国の古墳中期における韓半島系食器 丸底と平底食器の系譜」『考古学雑誌』第89巻第三号 日本考古學会
- 田中史生2005『倭国と渡来人 交差する「内」と「外」』吉川弘文館

図版出典

表1~6:新規作成 集成データを基に修正・調整。表7~11:新規作成:主に新村が集成し、各文献を基に修正・加筆。図1~3:新規作成 木内信蔵・山口恵一郎監修1992「日本地図帳」第31版 昭文社「福井県」、「石川県」、「富山県」を基に新村・松尾が修正・加筆。

新村いづみ(創価大学文学部人文学科卒業生) 松尾 実((財)石川県埋蔵文化財センター)